



平成29年7月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年6月12日

上場会社名 株式会社 シーズ・ホールディングス
 コード番号 4924 URL <http://ci-z-holdings.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成29年6月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年7月期第3四半期の連結業績(平成28年8月1日～平成29年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年7月期第3四半期	30,787	16.1	6,130	41.6	6,288	46.5	4,449	56.5
28年7月期第3四半期	26,528	1.7	4,328	11.0	4,293	8.5	2,844	12.9

(注) 包括利益 29年7月期第3四半期 4,654百万円 (63.1%) 28年7月期第3四半期 2,854百万円 (9.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年7月期第3四半期	91.49	
28年7月期第3四半期	60.27	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年7月期第3四半期	36,718	30,465	80.5	608.09
28年7月期	36,140	27,951	75.2	558.72

(参考) 自己資本 29年7月期第3四半期 29,574百万円 28年7月期 27,173百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年7月期		0.00		44.00	44.00
29年7月期		0.00			
29年7月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年7月期の連結業績予想(平成28年8月1日～平成29年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,400	7.5	8,500	3.8	8,500	3.9	6,130	15.9	126.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

29年7月期3Q	48,635,255 株	28年7月期	48,635,255 株
29年7月期3Q	70 株	28年7月期	株
29年7月期3Q	48,635,220 株	28年7月期3Q	47,185,322 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部に改善の遅れもみられるものの、各種政策の効果もあり、緩やかな回復に向かうことが期待されております。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

このような環境の中、当社は平成29年2月に全社の基幹システムの入替を行い、ポイントサービスなどの顧客サービスを改定いたしました。

また当第3四半期連結累計期間の経営成績については、前第3四半期連結会計期間から新たに株式会社シーズ・ラボが連結対象となり、前年同期と比較して連結売上高と各段階利益が増加したことに加え、ラボラボブランドの売上高が引き続き国内外で拡大した結果、売上高は30,787百万円(前年同期比16.1%増)、営業利益は6,130百万円(前年同期比41.6%増)、経常利益は6,288百万円(前年同期比46.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,449百万円(前年同期比56.5%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<ドクターシーラボ事業>

ドクターシーラボ事業においては、ドクターシーラボブランド・ラボラボブランド・ジェノマーブランドで構成される3つの化粧品ブランドと健康食品を販売しております。

ドクターシーラボ事業をブランド別に見ますと、主力ブランドであるドクターシーラボブランドは、アクアカラーゲンゲルシリーズに続く第2の柱を育てるべく、「VC100エッセンスローション」を中心としたVC100シリーズの展開を行っており、その一環として平成29年2月には新商品「VC100ゲル」を発売いたしました。また、平成29年4月には、ブライティングケアへの訴求を目的として「薬用アクアカラーゲンゲル美白EX」についてリニューアル発売を行いました。

ラボラボブランドは、インバウンド需要の恩恵を最も受けた「スーパー毛穴ローション」が、化粧品全体の売上高増加に大きく貢献いたしました。

ジェノマーブランドは、ブランド誕生から15周年を迎えたことを記念して商品リニューアルを実施し、アンチエイジングブランドとしての認知度の強化・定着化を図っております。

健康食品については、当第3四半期連結会計期間において、加齢に伴うトイレのお悩みを対象とした「モレスト」と髪の毛のボリュームのお悩みを対象とした「ボリューム」を新発売いたしました。健康食品全体では前年同期よりも広告費を投下したものの、売上高は前年同期比で減収となりました。

以上により、ドクターシーラボ事業の売上高は、28,861百万円(前年同期比11.2%増)、営業利益は5,768百万円(前年同期比35.4%増)となりました。

次にドクターシーラボ事業を販路別に見ますと、通信販売においてはアクアカラーゲンゲルを含めたセット商品の販売を積極的に推し進めてまいりました。中でも「VC100エッセンスローション」とアクアカラーゲンゲルとのセット販売が好調で、購入単価の引上げにも繋げることができました。しかしながら、公式のECサイトのリニューアル日程が当初の計画よりも遅延する事象が発生したことで、一定数の顧客離反が見受けられました。なお、当第3四半期連結会計期間からステップアップ割引制度を廃止し、ポイント制度に一本化したしました。この結果、当第3四半期連結会計期間より、旧ステップアップ割引制度による売上値引が計上されなくなりました。以上により、通信販売の売上高は16,338百万円となり、前年同期と比較して2.9%減少いたしました。

卸売販売においては、中華圏のお客様に特に人気がある「スーパー毛穴ローション」を当第3四半期連結累計期間を通して積極的な出荷を行ったため、前年同期を大幅に上回る売上高となりました。また、当社の顧客層において、相対的に顧客割合が少ない20代後半～30代前半の顧客層を拡大させるべく、幅広い世代から人気が高い

「VC100エッセンスローション」と新商品「VC100ゲル」を中心とした商品について、お客様の購買意欲を刺激する商品陳列や販促活動を行ってまいりました。以上により、卸売販売の売上高は6,665百万円となり、前年同期と比較して27.7%増加いたしました。

対面型店舗販売では、お客様の満足度向上のために継続的なお手入れ会を実施してきたことに加え、来店客数及び来店回数の増加を目的として、来店客へのプレゼント贈呈や、商品の試用・カウンセリングをご提供する機会を多く設けるなどの施策を積極的に行ってまいりました。外国人観光客のインバウンド需要につきましては、引き続き銀座・新宿・池袋エリアの百貨店の販売に注力したことに加え、当第3四半期連結会計期間において新たに観光客が多い沖縄県の「沖縄アウトレットモール あしびなー」へ新規出店を行いました。以上により、対面型店舗販売の売上高は、2,867百万円となり、前年同期と比較して6.0%増加いたしました。

海外においては、当社グループのブランドをグローバルブランドへと成長させるべく、米国のジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業主導の海外展開を、平成29年1月より始動いたしました。当第3四半期連結会計期間より、海外地域の売上高については、ジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業の販売額に対する一定のロイヤリティ収入が収益の柱となっております。会計上の観点からでは、売上高は従前よりも減少する一方で、海外における費用負担がほとんど発生しなくなるため収益性が大幅に向上することとなります。以上により、海外の売上高は2,989百万円となり、前年同期と比較して146.4%増加いたしました。

<エステ・サロン事業>

エステ・サロン事業においては、既存店舗では首都圏及び大阪の店舗を中心に契約数が順調に積み上がっている一方で、新店舗の出店が当初の計画よりも遅れており、売上高が計画よりも下回って推移しております。しかしながら各店舗における物品販売にも引き続き力を入れたことにより、一店舗当たりの増収と収益性の向上に寄与いたしました。以上により、エステ・サロン事業の売上高は、1,926百万円（前年同期比241.3%増）、営業利益は364百万円（前年同期比403.0%増）となりました。なお、エステ・サロン事業は前第3四半期連結会計年度より開始しております。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月13日に発表しました連結業績予想は変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,829,693	19,613,998
受取手形及び売掛金	5,686,957	4,516,063
有価証券	233,511	228,096
商品及び製品	2,070,491	2,712,129
原材料及び貯蔵品	1,308,152	1,297,744
その他	1,296,666	1,630,284
貸倒引当金	△61,224	△47,233
流動資産合計	29,364,248	29,951,084
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,132,156	1,148,660
減価償却累計額	△420,839	△447,317
建物(純額)	711,317	701,343
工具、器具及び備品	1,436,052	1,521,715
減価償却累計額	△1,143,439	△1,189,994
工具、器具及び備品(純額)	292,612	331,721
土地	1,315,861	1,315,861
その他	175,674	123,593
減価償却累計額	△66,796	△42,404
その他(純額)	108,878	81,189
有形固定資産合計	2,428,669	2,430,116
無形固定資産		
ソフトウェア	267,945	1,076,903
ソフトウェア仮勘定	933,738	291,283
のれん	2,180,217	1,962,195
その他	21,649	19,196
無形固定資産合計	3,403,551	3,349,578
投資その他の資産		
その他	964,748	1,008,041
貸倒引当金	△20,534	△20,534
投資その他の資産合計	944,213	987,506
固定資産合計	6,776,435	6,767,201
資産合計	36,140,684	36,718,285

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	554,407	1,089,890
未払金	1,984,749	1,696,426
前受収益	1,161,666	906,666
未払法人税等	1,953,858	428,758
賞与引当金	153,923	186,883
ポイント引当金	149,199	213,961
その他	1,877,171	1,339,929
流動負債合計	7,834,976	5,862,518
固定負債		
退職給付に係る負債	187,944	213,765
その他	166,349	176,237
固定負債合計	354,294	390,003
負債合計	8,189,271	6,252,521
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,959,358	2,959,358
資本剰余金	3,436,758	3,436,758
利益剰余金	20,790,661	23,100,453
自己株式	—	△230
株主資本合計	27,186,778	29,496,339
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	221	△1,340
為替換算調整勘定	△13,590	79,474
その他の包括利益累計額合計	△13,368	78,134
非支配株主持分	778,002	891,290
純資産合計	27,951,412	30,465,764
負債純資産合計	36,140,684	36,718,285

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
売上高	26,528,991	30,787,954
売上原価	5,117,618	6,532,181
売上総利益	21,411,373	24,255,772
販売費及び一般管理費	17,083,057	18,124,865
営業利益	4,328,316	6,130,907
営業外収益		
受取利息	2,899	1,539
受取配当金	1,153	1,175
為替差益	—	104,469
受取手数料	24,048	25,231
商品破損受取賠償金	8,816	8,649
その他	18,630	20,822
営業外収益合計	55,547	161,889
営業外費用		
支払利息	413	316
支払補償費	—	3,456
為替差損	89,979	—
その他	335	251
営業外費用合計	90,728	4,024
経常利益	4,293,135	6,288,772
特別利益		
固定資産売却益	—	3,963
事業譲渡益	—	358,370
特別利益合計	—	362,333
特別損失		
減損損失	15,091	62,734
固定資産除却損	369	18,244
固定資産売却損	—	33
子会社清算損	26,834	—
特別損失合計	42,296	81,012
税金等調整前四半期純利益	4,250,839	6,570,093
法人税等	1,379,638	2,006,392
四半期純利益	2,871,200	4,563,700
非支配株主に帰属する四半期純利益	27,180	113,957
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,844,020	4,449,743

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
四半期純利益	2,871,200	4,563,700
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24,304	△2,232
為替換算調整勘定	△41,341	93,065
その他の包括利益合計	△17,037	90,832
四半期包括利益	2,854,162	4,654,533
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,826,696	4,541,245
非支配株主に係る四半期包括利益	27,466	113,288

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ドクターシー ラボ事業	エステ・サロ ン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	25,964,591	564,400	26,528,991	—	26,528,991
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17,272	—	17,272	△17,272	—
計	25,981,864	564,400	26,546,264	△17,272	26,528,991
セグメント利益	4,260,851	72,443	4,333,295	△4,978	4,328,316

(注) 1. セグメント利益の調整額△4,978千円は、セグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	ドクターシー ラボ事業	エステ・サロ ン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	28,861,912	1,926,042	30,787,954	—	30,787,954
セグメント間の内部 売上高又は振替高	71,397	—	71,397	△71,397	—
計	28,933,309	1,926,042	30,859,351	△71,397	30,787,954
セグメント利益	5,768,906	364,366	6,133,273	△2,366	6,130,907

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,366千円は、セグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「化粧品事業」「健康食品事業」及び「エステ・サロン事業」の3区分から、「化粧品事業」と「健康食品事業」を合わせた「ドクターシーラボ事業」と「エステ・サロン事業」の2区分に変更しております。これは、当連結会計年度より開始する第5次中期経営計画において、今後新規事業を含めたグループ事業の拡大を計画しており、株式会社ドクターシーラボの「化粧品事業」と「健康食品事業」をまとめた「ドクターシーラボ事業」と株式会社シーズ・ラボの「エステ・サロン事業」という2つの事業区分で経営管理することに変更したためでございます。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。